

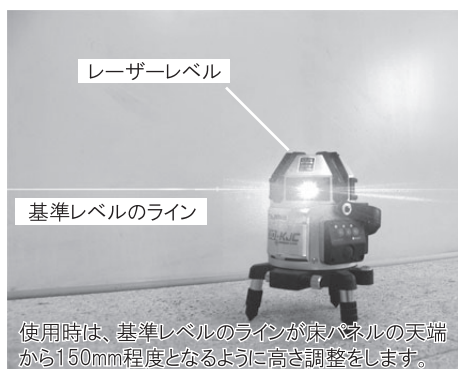
ジャストフローアー 低床対応タイプ 施工要領書

この度は弊社乾式遮音二重床をご採用頂きましてありがとうございます。
本施工要領書は、製品本来の性能・機能を十分に引き出し、安全で正しい施工をして頂くための注意事項が記載されていますので、施工前に必ずお読み下さい。
また、各施工現場では様々な状況が考えられますので、事前に弊社担当者と十分な打ち合わせを頂きますようお願い致します。

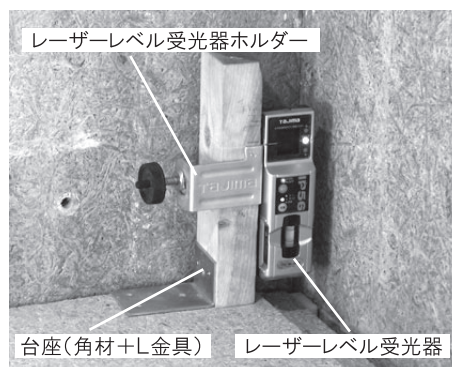
■ 推奨工具一覧

- 電動ノコギリ(チップソーの丸のこ 集塵機付) ● サンダー
- レベル調整用ドライバー(プラス・No.3のサイズ)
- インパクトドライバー(ビス留め用)
- スケール ● カッター ● ほうき ● ちりとり
- レーザーレベル、水平器など
- ドリル(15φ 18φ以上 インパクトドライバーで利用できるもの)
- 金槌 ● 玄翁(げんのう)

[レーザーレベル使用例]

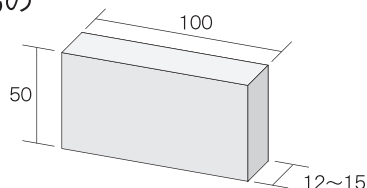


レーザーレベル(発光側)



レーザーレベル受光器(受光側)

- すき間ゲージ
12~15mm厚の合板を、
50mm×100mm角程度に
切断したもの

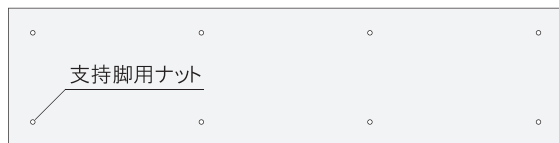


- エアーブローアー
手動タイプ。
軽微なゴミ、ホコリ等の除去に使用。



■ 床パネルについて

- 床パネルには、ベースパネル(強化高圧木毛セメント板 スラボー)と捨て張り(合板 F☆☆☆☆)を使用します。ベースパネルは23mm、捨て張りは12mmの厚みです。
- ベースパネルは、ノーマルタイプ(L=1820mm)とショートタイプ(L=910mm)の二種類があります。



ベースパネル N (ノーマルタイプ)



ベースパネル S (ショートタイプ)

- ベースパネルはナットのサラが出ている面が下側(支持脚挿入側)です。
- 床パネルはぬらさないようにして下さい。
- 直射日光に長時間当たることがないようにして下さい。

■ ジョイント材について

- ジョイント材は、スラボー(強化高圧木毛セメント板)製で23mmの厚みです。長尺ジョイント材(88mm×1820mm)と短尺ジョイント材(88mm×200mm)があります。
- ジョイント材は濡らさないようにして下さい。
- 直射日光に長時間当たることがないようにして下さい。
- ジョイント材は表側(研磨面)が上になるように用います。

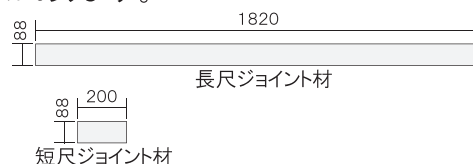
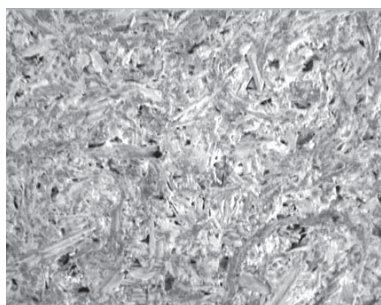
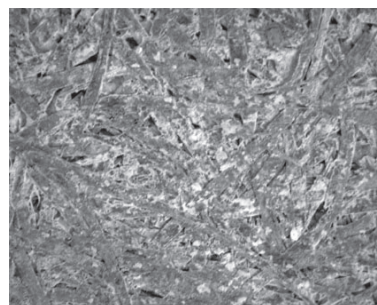


表 (研磨され、比較的きれいな表面)



研磨した面(木の色が多く出ている面)が表です。

裏 (セメントで覆われた灰色の表面)



研磨していない面(セメントの灰色が多い面)が裏面です。

■ 推奨ビスについて

- ジャストフロー施工時には、推奨のビスを使用して下さい。
推奨ビス①: ベースパネル施工用
パーティクルボード用ビス フレキ付 3.8mm×41mm(若井産業(株))
推奨ビス②: 捨て張り(合板)施工用
コンパネビス フレキ付 3.8mm×32mm(若井産業(株))



推奨ビス① 推奨ビス②

■ 専用接着剤について

- 品名: 置き床用接着剤TU-16(別売品 ホルムアルデヒド基準F☆☆☆☆)
- 中ボタンを取り、キャップを外してお使い下さい。
- 専用接着剤は、注入した数時間後発泡を開始しますが、対象物を完全に固定するまでには1~2日かかります。
- 十分な換気を行いながら使用して下さい。
- 誤って目や口に入った場合には、ただちに洗浄、医師の診断等の処置をして下さい。



施工手順

① 事前準備、確認事項

- ・現場のレベルを確認し、床高に適応する支持脚であることを確認して下さい。
 - ・スラブ面にゴミがないように清掃して下さい。
 - ・床パネルの枚数を確認して下さい。
 - ・設備関係の配管位置を確認して下さい。
 - ・フローリングの向きを確認し、上パネルがフローリングと直交する向きに施工して下さい。
- ※ベースパネルはフローリングと同じ向きに施工します。

② 支持脚の取り付け

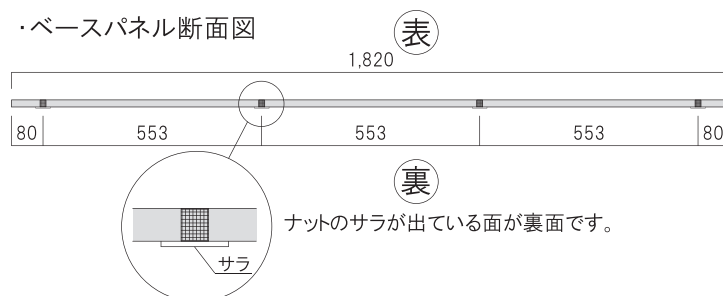


※ あらかじめ、仕上げのレベルに対するおおよその脚高を確認し、ボルトの引き上げ位置をその-2mm程度(2mm程度低くなる位置)となるように合わせて引き上げておくと、後の作業が楽になります。

ベースパネルN(ノーマルタイプ)の裏面(ナットのサラが出ている面)から支持脚を手で仮挿入し、表面から電動ドライバー(逆回転設定)で長尺受け材の面位置程度まで引き上げます。

壁際となる支持脚は、補強のため硬度75°の支持脚(品番:T75-**)を使用し、その他は硬度45°の支持脚(品番:O45-**)を使用します。

・ベースパネル断面図



③ 壁際となる側にジョイント材を取り付け

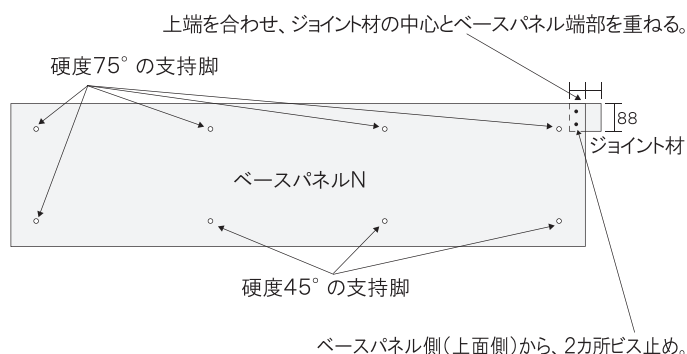


※ ビス止めは、止め忘れの防止や補修作業を効率よく行うために、設置時に上面となる方向から止めて下さい。

ベースパネルNの壁際となる側に、短尺ジョイント材を半分の長さに切断したものを裏側から表面(研磨してある面)が上側になるようにあて、ベースパネルの上面から推奨ビス①で2カ所ビス止めします。床鳴りの原因となりますので、ベースパネルNとジョイント材の間に隙間がないようにしっかり固定して下さい。

注) ジョイント材は、長さの中心がベースパネル端部に重なるようにセットして下さい。

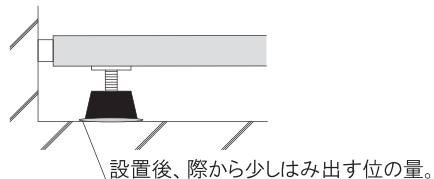
・壁際ジョイント材の取り付け方法



④ ベースパネルの設置



※ 専用接着剤は、防振ゴム底面の中心に、設置後にゴムの際から少しはみ出す程度の量を塗布して下さい。



※ 仕上げの都合等でスペーサーが使用できない場合には、すき間ゲージ（推奨工具参照）を用い、15mm程度の隙間を確保して設置して下さい。

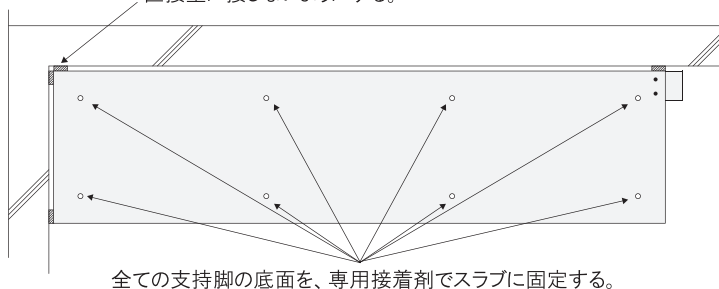
スペーサーをベースパネルの壁と接する横側面の両端部と縦側面の両端部にベースパネルからはみ出さないように貼り付けます。（壁側の剥離紙は剥がさない。）

全ての支持脚の底面（8カ所）に適量の専用接着剤を塗布した後、壁面に軽く接するように設置します。

注）ベースパネルが直接壁に接した状態で施工すると防音性能が低下します。

・スペーサーの貼付位置と、専用接着剤で固定する位置

スペーサー（壁側の端部側面に4個）を用い、ベースパネルが直接壁に接しないようにする。



⑤ 長尺ジョイント材の取り付け



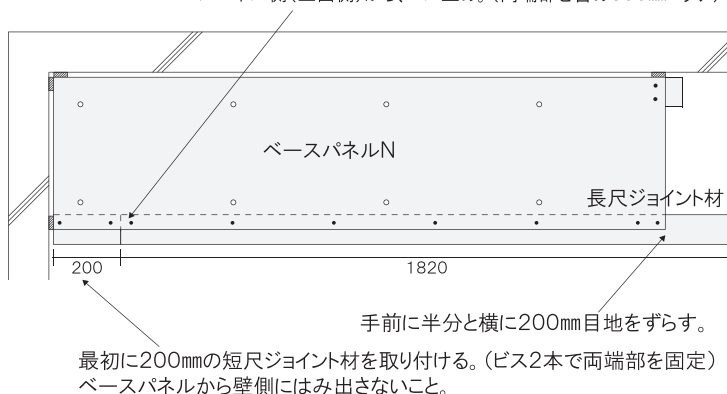
長尺ジョイント材は、ベースパネルと目地が重ならないよう、縦方向はジョイント材の半分、横方向は200mmずらして取り付けます。横方向の位置を確保するために、200mm幅の短尺ジョイント材を最初に取り付けた後、長尺ジョイント材を取り付けます。

設置したベースパネルの裏側からジョイント材を表面（研磨してある面）が上側になるようにあて、ベースパネルの上面から推奨ビス①でビス止めします。床鳴りの原因となりますので、ベースパネルとジョイント材の間に隙間がないようにしっかり固定して下さい。

注）ビスの間隔は、300mmを目安として下さい。但し、短尺ジョイント材はビス2本で両端部を固定します。

・長尺ジョイント材の取り付け方法

ベースパネル側（上面側）から、ビス止め。（両端部を含め300mmピッチ）



⑥ 横1列のベースパネルの設置



※ 長尺ジョイント材に足を掛けたり乗ったりすると破損する場合がありますので、注意して作業して下さい。

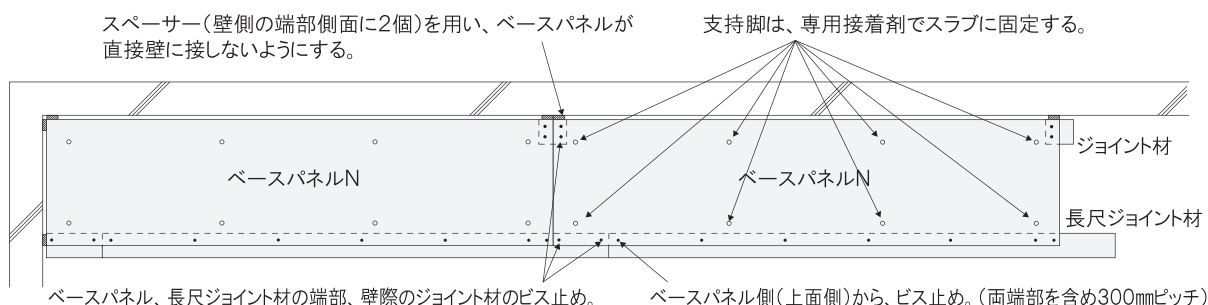
次のベースパネルNに、壁際の位置はゴム硬度75°の支持脚、それ以外はゴム硬度45°の支持脚、壁際のジョイント材(100mm幅)、スペーサーを取り付け、全ての支持脚に接着剤を塗布した後、1枚目のジョイント材に乗せ、2枚のベースパネルに隙間が出来ない位置に設置します。

設置したベースパネルの裏側から長尺ジョイント材を表面(研磨してある面)が上側になる向きで、1枚目の長尺ジョイント材と隙間が出来ないようにあて、ベースパネルの上面から推奨ビス①でビス止めします。床鳴りの原因となりますので、ベースパネルとジョイント材の間に隙間がないようにしっかり固定して下さい。

注) ビスの間隔は、300mmを目安として下さい。

注) ベースパネル及び長尺ジョイント材の端部と、ベースパネルと重なる壁際のジョイント材の部分には、ビス止めが必要です。

・次のベースパネルの取り付け方法



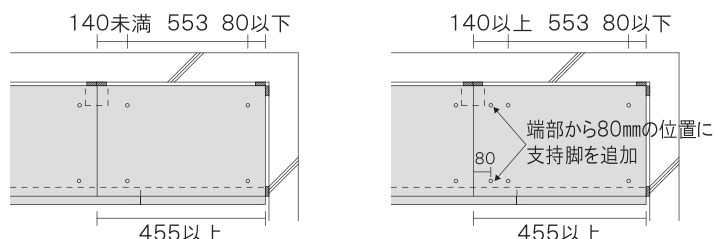
※ 長尺ジョイント材とベースパネルの目地は200mm以上ずれるように、注意して作業して下さい。また、途中及び最後尾でジョイント材に隙間が出来ないようにカットして取り付けて下さい。(スペーサー部分の空間は除く。)

同様の作業を繰り返し横1列のベースパネルを設置します。最後尾(壁際となる側)のパネルは残りの寸法からスペーサーの厚み(15mm)を引いた寸法にカットしたベースパネルを用います。但し、その寸法が455mmより小さくなる場合には、手前のベースパネルをカットしてサイズ調整を行い、455mm以上にします。

また、最後尾のベースパネルの支持脚は、壁際から80mm以下の位置にあること、及びベースパネルの端部と支持脚との距離が140mm未満となるよう、必要に応じて支持脚を追加します。

注) 最後尾のベースパネルは、他のパネルと同様に壁側にはスペーサーを貼付し、壁際の支持脚には追加した支持脚も含めゴム硬度75°の支持脚を使用し、全ての支持脚に専用接着剤を塗布して設置して下さい。

■ 端部と支持脚間が140mm未満の場合 ■ 端部と支持脚間が140mm以上の場合



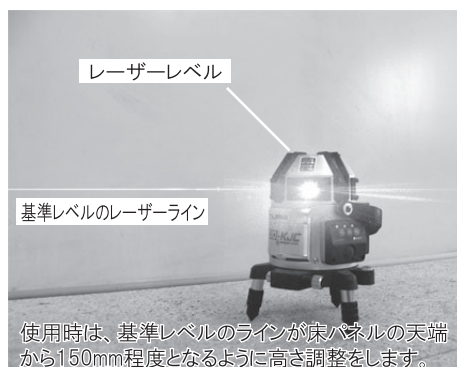
※ どの場合でも壁から80mm以下の位置に必ず支持脚があること。

※ 支持脚の追加は、ベースパネルに15φの穴を開け、ナットをげんのうで浮きがないように打ち込みます。その後、周囲を瞬間接着剤で固定します。(詳細は「その他、注意事項」を参照。)

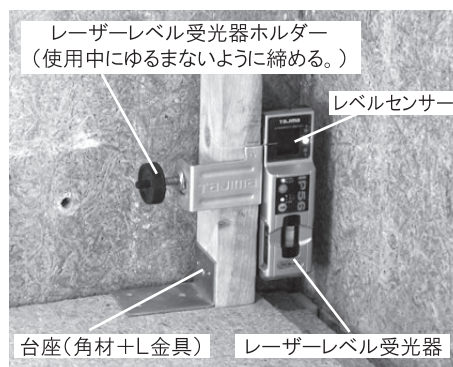
⑦ 基準レベルとレーザーレベルの調整



横1列の設置が完了したら、レベル調整を行います。
1枚目の床パネルの角をベースパネル上面の基準となる墨にレベル調整(プラスドライバー・No.3サイズで支持脚のボルトを回して合わせる。)した後、レーザーレベルとレーザーレベル受光器を設置します。
この時に、レーザー光が受光器のレベルセンサーの中央位置に出来るだけ近くなるようにレーザーレベルとレベルセンサーの高さを合わせておきます。(高さ調整の基準となるレーザーラインがベースパネルの天端から150mm程度を目安にすると良い。)



レーザーレベル(発光側)



レーザーレベル受光器(受光側)

⑧ レベル調整



※ コンクリートの不陸等により、ジョイント材が床に触れることがあります。レベル調整が出来なかったり防音性能が低下する場合がありますので、注意して下さい。
(修正方法は、「その他、注意事項」を参照。)

基準レベルとした支持脚以外の全ての支持脚を、レベルセンサーが受光位置となるように支持脚の調整ボルトをプラスドライバー(No.3サイズ)で順次調整します。

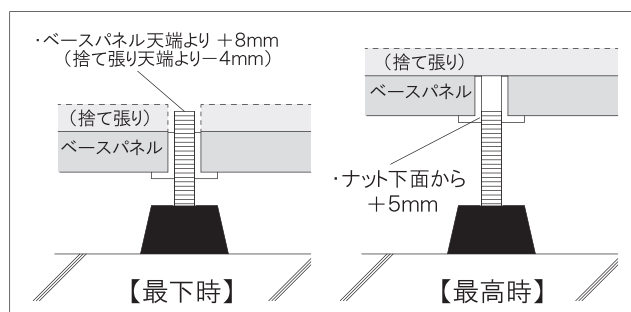
調整後、支持脚のボルトがベースパネルの天端より上に出ているか指で確認し、出ている箇所にはチョークやマジックインキ等でマーキングします。(捨て張りに穴を開ける必要があるため、出来るだけ目立つように。)

注) 体や障害物などでレーザーをさえぎるとレベルの調整ができませんので、注意して下さい。

注) 正確に調整を行うため、ベースパネルには乗らないように作業をして下さい。

注) 支持脚の調整範囲を超えてしまう場合には、適切な長さの支持脚と交換して下さい。

・調整範囲の目安



⑨ 次列のベースパネルの設置



次列の最初のベースパネルは、前列と目地(ジョイント部分)が重ならないようにするため、ベースパネルS(ショートタイプ)を使用します。

壁際の位置はゴム硬度75°の支持脚、それ以外はゴム硬度45°の支持脚、壁際のスペーサーを取り付けた後、前列のジョイント材に寄せ、前列のベースパネルと隙間が出来ないように設置します。

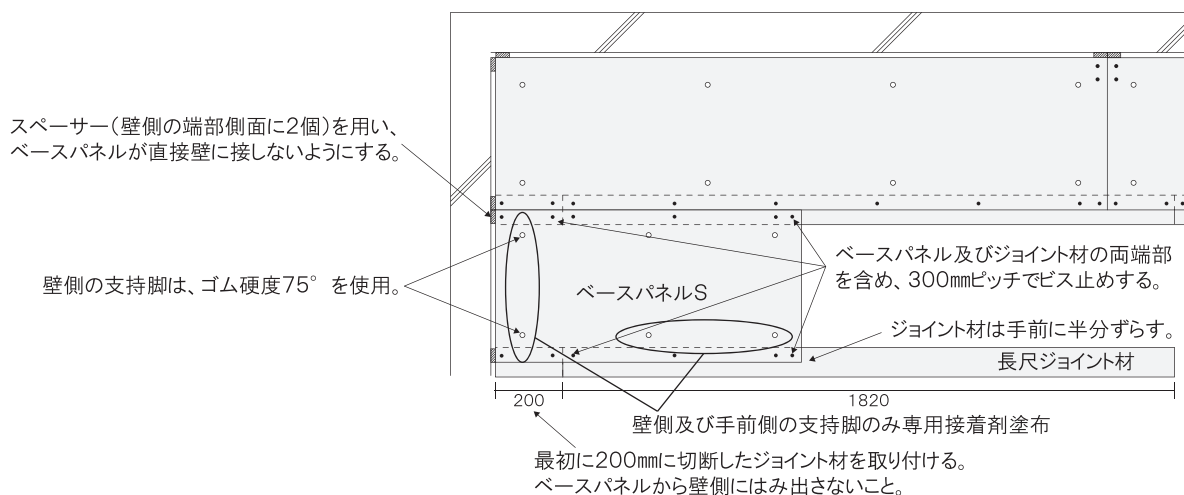
前列のジョイント材に乗せた部分をベースパネルの上面から推奨ビス①でビス止めした後、手前側の支持脚直下となる位置のスラブに、ベースパネルを軽く持ち上げて④と同量の専用接着剤を塗布します。

⑤の作業と同様に、設置したベースパネルの裏側から200mmにカットした短尺ジョイント材と長尺ジョイント材を表面(研磨してある面)が上側になるようにあて、ベースパネルの上面から推奨ビス①でビス止めします。床鳴りの原因となりますので、ベースパネルとジョイント材の間に隙間がないようにしっかり固定して下さい。

※ 長尺ジョイント材に足を掛けたり乗ったりすると破損する場合がありますので、注意して作業して下さい。

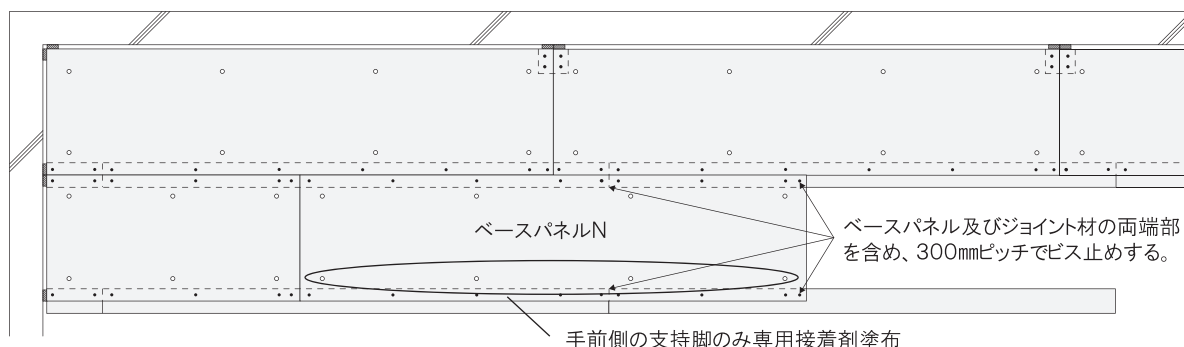
注) ビスの間隔は、300mmを目安として下さい。

・次列のベースパネルの設置方法



ベースパネルNに支持脚を取り付けた後、前列のジョイント材に乗せ、隣り合うベースパネルと隙間が出来ないように設置し、ジョイント材に乗せた部分をベースパネルの上面から推奨ビス①でビス止めし、専用接着剤塗布とジョイント材の取り付けを同様に行います。

・次のベースパネルの取り付け方法



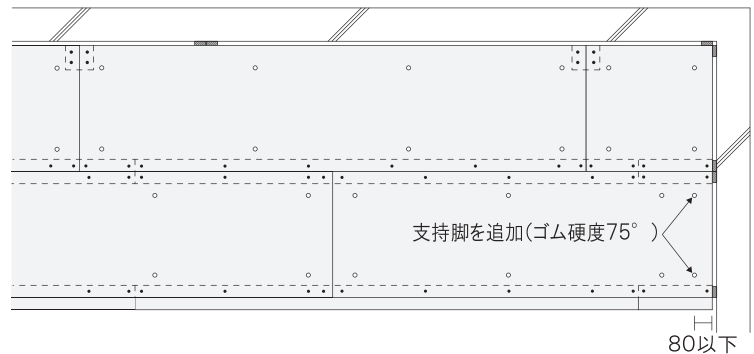
※ 長尺ジョイント材とベースパネルの目地、及び前列のベースパネルの目地とは200mm以上ずれるように、注意して作業して下さい。
また、途中及び最後尾でジョイント材に隙間が出来ないようにカットして取り付けて下さい。（スペーサー部分の空間は除く。）

※ 支持脚の追加は、ベースパネルに15φの穴を開け、穴の周囲に瞬間接着剤を塗布した後、ナットを玄翁で浮きがないように打ち込みます。（詳細は「その他、注意事項」を参照。）

同様の作業を繰り返し横1列のベースパネルを設置します。最後尾（壁際となる側）のパネルは残りの寸法からスペーサーの厚み（15mm）を引いた寸法にカットしたベースパネルを用います。但し、その寸法が220mmより小さくなる場合や前列のベースパネルの目地と200mm以内となる場合には、手前のベースパネルをカットしてサイズ調整を行い、220mm以上にします。

また、最後尾のベースパネルの支持脚は、壁際から80mm以下の位置にあること、手前のベースパネルの支持脚との距離が553mm以下となるよう、必要に応じて支持脚を追加します。

・最後尾のベースパネルの取り付け方法



⑩ レベル調整



※ コンクリートの不陸等により、ジョイント材が床に触れることがあります。レベル調整が出来なかったり防音性能が低下する場合がありますので、注意して下さい。（修正方法は、「その他、注意事項」を参照。）

注) 体や障害物などでレーザーをさえぎるとレベルの調整ができませんので、注意して下さい。

注) 正確に調整を行うため、ベースパネルには乗らないように作業をして下さい。

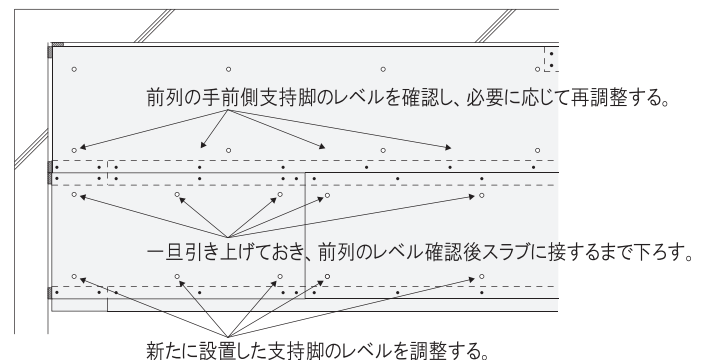
注) 支持脚の調整範囲を超えてしまう場合には、適切な長さの支持脚と交換して下さい。

新たに設置したベースパネルの奥側の支持脚をスラブから浮いた状態にした後、前列手前側の支持脚のレベル確認と再調整を行いながら、新たに設置したベースパネルの奥側の支持脚をスラブに接するまで下ろします。

新たに設置したベースパネルの手前側の支持脚を⑧の手順と同様に順次調整します。

調整後、支持脚のボルトがベースパネルの天端より上に出ているか指で確認し、出ている箇所にはチョークやマジックインキ等でマーキングします。（捨て張りに穴を開ける必要があるため、出来るだけ目立つように。）

・前列のレベル確認と、レベル調整



⑪ 最終列のベースパネルの設置



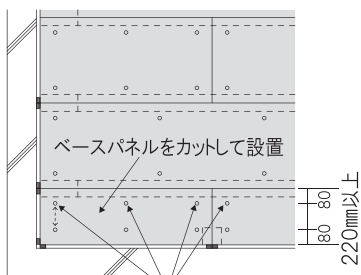
隣り合う列のベースパネルの目地や、ベースパネルとジョイント材の目地が200mm以上離れていることに注意しながら、次列以降を設置します。

最終列のベースパネルは、支持脚が壁から80mm以下の距離に有るようにベースパネルの加工を行い、また、パネル幅が220mm以上となる場合には既存の支持脚と対になる位置に支持脚を追加し、⑥と同様に壁際のジョイント材を取り付けた後、設置します。

注) 最終列のベースパネルは、他のパネルと同様に壁側にはスペーサーを貼付し、壁際の支持脚には追加した支持脚も含めゴム硬度75°の支持脚を使用し、専用接着剤を塗布した後、設置して下さい。

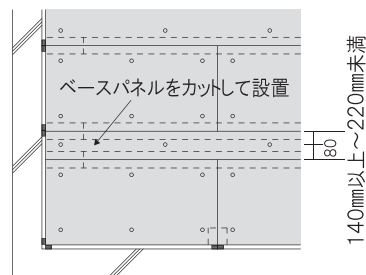
・最終列の施工例

■最終列のパネル幅が220mm以上の場合



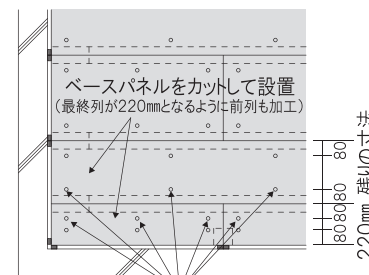
既存の支持脚と対になる位置に支持脚を追加。但し、415mm以上の場合は、既存の支持脚穴を使用できるため、追加不要。(その場合、切断した側が壁側となるように設置すること。)

■最終列のパネル幅が140～220mm未満の場合



※支持脚が1列のみの場合には、壁際より手前の列に設置する。

■最終列のパネル幅が140mm未満の場合



既存の支持脚と対になる位置に支持脚を追加

※ コンクリートの不陸等により、ジョイント材が床に触れることがあります。レベル調整が出来なかったり防音性能が低下する場合がありますので、注意して下さい。(修正方法は、「その他、注意事項」を参照。)

前列手前側の支持脚のレベル確認と再調整を行いながら、新たに設置したベースパネルの全ての支持脚を、⑩の手順と同様に順次調整します。

調整後、支持脚のボルトがベースパネルの天端より上に出ているか指で確認し、出ている箇所にはチョークやマジックインキ等でマーキングします。(捨て張りに穴を開ける必要があるため、出来るだけ目立つように。)

注) 体や障害物などでレーザーをさえぎるとレベルの調整ができませんので、注意して下さい。

注) 正確に調整を行うため、調整する支持脚があるベースパネルには乗らないように作業して下さい。

注) 支持脚の調整範囲を超えてしまう場合には、適切な長さの支持脚と交換して下さい。

⑫ レベル調整の確認



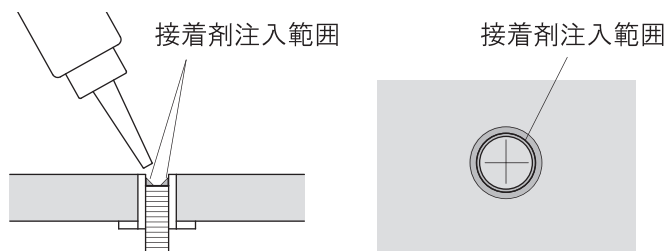
実際に床の上を歩行し、他に比べて柔らかく感じる場所やふわふわと浮いているところがないか点検します。あった場合には、支持脚がスラブに付くまでボルトを回して下さい。このとき、調整する支持脚の上となるベースパネルには乗らないようにして、ベースパネルの水平を保つようにして作業して下さい。

⑬ 専用接着剤の注入



支持脚のボルトとベースパネルのナットの嵌合部(ボルトの外周とナットの内周の接している部分)を全て埋めるように専用接着剤を注入し、固定します。

このとき、エアブローアを使用して注入部分のゴミ、ホコリ等を除去してから接着剤を注入して下さい。



注) 専用接着剤は、注入した数時間後発泡を開始しますが、ボルトを完全に固定するまでには1～2日かかります。

⑭ 捨て張りの設置



捨て張り(合板)は、床パネルと直交するように設置します。この時、捨て張りの継ぎ目はベースパネルの目地部から100mm以上ずらし、壁との隙間をあけて設置してください。

支持脚のボルトがベースパネルの天端より上に出ている場合(レベル調整時にマーキングした箇所)は、捨て張りにボルトを避けるための穴を開ける必要があります。正確に位置を測定し、ボルトの上となる位置に18φ以上の穴を開けた後、設置して下さい。



設置後、捨て張り合板を推奨ビス②(又は同等品)を使用し、200mmピッチでビス止めします。ビスが床下配管を傷つける恐れがありますので、床パネルを突き抜けない長さのビスを使用して下さい。

注) 小さいサイズの捨て張りを使用すると、床強度の低下につながります。

推奨サイズ: 縦455mm以上、横910mm以上

⑮ 最終確認

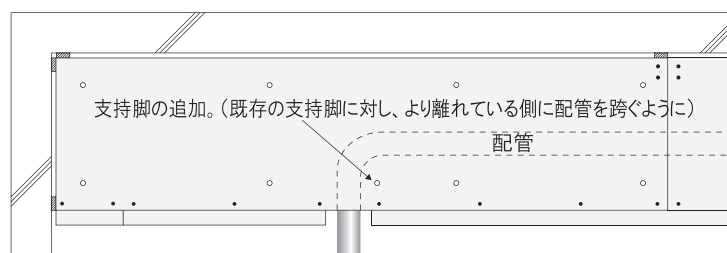


⑫と同様に実際に床の上を歩行し、他に比べて柔らかく感じるところやふわふわと浮いているところがないか点検します。あった場合には、その部分の捨て張りを撤去し支持脚がスラブに付くまでボルトを回して下さい。このとき、調整する支持脚の上となるベースパネルには乗らないようにして、ベースパネルの水平を保つようにして作業して下さい。

同時に、捨て張りのビス止めが確実にされているか、壁際の隙間が確保されているかを確認し、必要に応じて修正します。

■ その他、注意事項

- 部屋の壁際となる部分は、床が反り上がる可能性があるため、スラブと支持脚とを専用接着剤で必ず固定して下さい。
- ベースパネルの横幅は220mm以上のサイズを使用して下さい。やむを得ずそれ以下のサイズを使用する場合には、支持脚を追加し強度を確保して下さい。
- ベースパネルとジョイント材の目地が上下で重ならないよう、200mm以上ずらすことを目安に適宜調整して下さい。
- ベースパネルを敷き込む際、パネル同士は基本的に隙間無く敷設しますが、どうしても若干の隙間を空ける場合にはガムテープで養生して下さい。
- ベースパネルに切り欠き部分ができる場合（柱周りなど）には、その大きさにもよりますが、基本的にはベースパネルの角となる部分に支持脚を追加して補強して下さい。
- 支持脚の寸法が足りない場合には、必ず支持脚（ボルト）を交換して下さい。たとえ少数でも、木片などを支持脚の下に置き高さを補うことはしないようにして下さい。
- 基本的にジョイント材は隙間無く連結して施工しますが、配管やスラブ表面のコンクリート塊などによりやむを得ずジョイント材が途切れてしまう場合は、支持脚を追加して補強して下さい。（隙間が多くなるに従って床のたわみ量が大きくなるため。）



● 支持脚を追加する場合の手順

- ・ベースパネルに15φの穴を垂直に開ける。
- ・ベースパネルの裏面（ナット挿入側）から穴の周囲に適量の瞬間接着剤（市販品 高粘度、木工用：アロンアルファNo.3 推奨）を塗布する。
- ・ベースパネル裏側からナットを手で垂直に仮挿入する。
- ・玄翁でベースパネルとナットが密着するまで垂直に打ち込む。



ベースパネル裏面から穴の周囲に瞬間接着剤を塗布



ベースパネル裏面からナットを垂直に仮挿入



玄翁で垂直に打ち込む



ベースパネルとナットが密着していること

※商品の外観・仕様は改良のため予告なく変更することがあります。予めご了承下さい。

竹村工業株式会社

〒399-3301 長野県下伊那郡松川町上片桐4604
TEL 0265-36-6111 FAX 0265-36-6555

Ver.3.03 2012.6

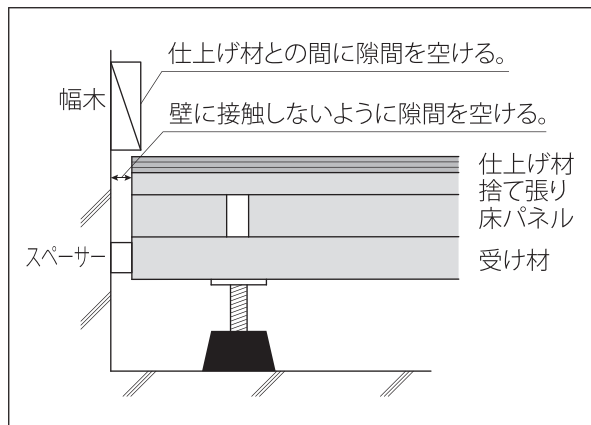
ジャストフロアー低床タイプ施工要領チェックリスト(Ver12.05.01)

ジャンル	No.	確認項目(説明)	確認結果(はい or いいえ)
工具	1	推奨使用工具について理解した。	はい ・ いいえ
床材・受材	2	床パネル、ジョイント材の特性を理解した。	はい ・ いいえ
	3	床パネル及びジョイント材の取扱方法を理解した。	はい ・ いいえ
	4	床パネル及びジョイント材の形状を理解した。	はい ・ いいえ
	5	ビスは床材と受材の固定に使用し、推奨ビスがあることを認識した。 (釘は絶対に使用しない)	はい ・ いいえ
接着剤	6	専用接着剤(TU-16)があることを認識した。	はい ・ いいえ
	7	接着剤の適正な使用方法及び対処方法を理解した。	はい ・ いいえ
	8	施工現場のレベルを確認し、床高を把握する必要があることを理解した。	はい ・ いいえ
施工準備	9	スラブ面の清掃を行うことを理解した。	はい ・ いいえ
	10	仕上げ材の向きを確認し床パネル及び捨て張りの適正方向を認識した。	はい ・ いいえ
施工	11	たわみゴム付きのボルトは壁際で使用することを理解した。	はい ・ いいえ
	12	支持脚の正しい使用方法を理解した。	はい ・ いいえ
	13	壁際のジョイント方法を理解した。	はい ・ いいえ
	14	スペーサーの設置及び使用方法を理解した。	はい ・ いいえ
	15	床パネル設置時の注意点を把握し、的確に設置することを理解した。	はい ・ いいえ
	16	短尺、長尺ジョイント材の正しい設置方法を理解した。	はい ・ いいえ
	17	ジョイント部の適正な施工方法を理解した。(200mm以上離す)	はい ・ いいえ
	18	床パネル材の最小施工寸法を認識し、適正な施工方法を理解した。	はい ・ いいえ
	19	床パネルの的確な本締ピッチを理解した。(ジョイント部分はまたぐ形で打つ)	はい ・ いいえ
	20	支持脚を追加する場合の手順を理解した。	はい ・ いいえ
	21	適正なジョイント箇所について認識し、正しい施工方法を理解した。	はい ・ いいえ
施工	22	配管、スラブ不陸への対応方法を理解した。	はい ・ いいえ
	23	接着剤の使用箇所、注入方法を理解した。	はい ・ いいえ
最終確認	24	的確なレベル調整方法を理解した。	はい ・ いいえ
	25	歩行点検の用法、要領を理解した。	はい ・ いいえ
全体	26	ジャストフロアーは躯体と完全に縁を切ることでにより十分な性能を得られることを理解した。	はい ・ いいえ
	27	スラブと支持脚の間に異物を挟んではいけないことを理解した。	はい ・ いいえ
	28	配管等の状況により臨機応変な対応が可能だが、守らなければならない施工方法を理解した。	はい ・ いいえ

高性能遮音二重床ジャストフローアが製品の持つ高い遮音効果を十分に発揮するには、現場での正しい施工が大変重要となります。
遮音性能を低下させないための重要なポイントをご確認の上、施工を行って下さい。

❗ 壁に、仕上げ材や二重床本体を接触させない。

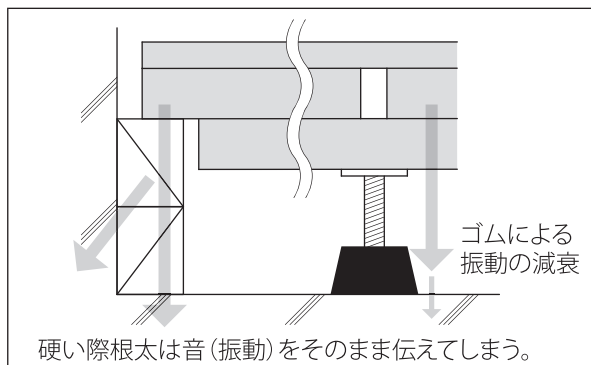
❗ 仕上げ材(フローリング等)は、幅木に接触させない。



仕上げ材や捨て張りを含む二重床本体は、壁からの隙間をきちんと確保する形で施工して下さい。(スペーサーを除く。) 一部分でも壁に接触しているとそこから音が伝わり、遮音性能が大きく低下します。

幅木(硬い通常品)は、仕上げ材に接触しないように隙間を空けて施工して下さい。接触することにより、遮音性能は大きく低下します。

❗ 際根太は使用しない。

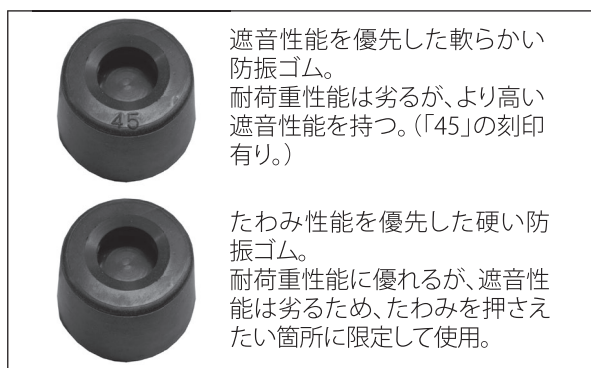


際根太を使用し、それに二重床を固定する形で施工すると、壁やスラブからダイレクトに振動が伝わり、遮音性能が著しく低下します。

際根太に固定する施工は、検証した中では最も性能が悪く、「駄目な床」と言われてしまう程の影響があります。

際根太は使用せず、壁からの隙間をきちんと確保する形で施工して下さい。

❗ 壁際などに使用する硬い防振ゴムを、部屋の内側で使用しない。



硬い防振ゴムは壁際や敷居付近などでの使用に限定しています。部屋の内側など軟らかい防振ゴムを使用すべきところに代用(もしくは混入)しないように施工して下さい。

一カ所でも硬いゴムが混じることにより、遮音性能は大きく低下してしまいます。

二重床は、施工上のわずかなことが原因で人の耳で簡単に聞き分けられる程に遮音性能が著しく低下する場合があります。

上記のポイント及び施工要領書の手順を守り、正しい施工をお願い致します。

タケムラ 高性能遮音二重床 取り扱い上の注意

製品名： ジャストフロー

基 材： 強化高圧木毛セメント板(スラボー)

副資材： ゴム、鋼製金物、接着剤、スペーサー

！ 保 管



直射日光禁止



水濡れ注意

- 納入後は速やかに施工を行って下さい。
- 直射日光が当たる場所や屋外に保管しないで下さい。変形(反り)の原因となります。
- 著しい乾燥状態で保管しないで下さい。変形(反り)の原因となります。
- 本製品は、水に濡らさないようにして下さい。
- 床パネルの保管時、最上部の1枚は裏面を上にして置いて下さい。

※ 床パネル及び受け材は、吸放湿性能を備えております。吸放湿に伴う変形(伸び縮み、反り)は製品の不具合・異常ではございません。

！ 施 工

- 搬入、施工時等、本製品に強い衝撃を与えないで下さい。破損、変形及び傷害の原因となる恐れがあります。
- 本製品を乾式二重床以外の用途に使用しないで下さい。

！ 安全にご使用いただくために

- 本製品は重量物です。安全靴を着用し作業して下さい。
- 床パネル等の切断作業時に出る切り屑を長時間吸入すると、「じん肺」になる恐れがあります。切断作業時は防塵マスクを着用して下さい。
- 床パネル等の切断作業を室内で長時間行う場合には、集塵装置を設置して下さい。
- 本製品の取り扱いには手袋を着用して下さい。長時間素手で扱くと肌荒れの原因となります。
- 接着剤が眼に入った場合には、最低15分間洗眼し、直ちに眼科医の診断を受けて下さい。

取り扱いを誤ると、本来目的とする性能を損なったり、健康を害する恐れがございます。 上記の注意事項及び施工要領書の手順を守り、安全で正しい施工をお願い致します。